

稲グリ新聞

〈発行〉
早大グリーンクラブOB会
稲門グリーンクラブ

〈編集〉
加藤晴生
原信二郎
佐々木豊

160新宿区百人町3-8-11
原方03(360)3336
(毎月1回発行)

さあ、追い込みだ

幹事会、諸準備の詰めにはいる

目前に迫った第二十二回稲グリ定演及び以後の活動に向けて、六月十日(金)夜、D証券の特別食堂で幹事会が開かれた。会長、幹事長以下十四名出席。

各担当から、チケット販売状況、プログラム制作及び広告入稿状況、定演当日のスケジュール案、打上げパーティー案等が報告、提案された。

れそれぞれ細部が検討された。詳しくは別記。

七月十九日(火)から練習開始

また、定演後のスケジュールは九月十五日からの大阪稲グリ上海演奏旅行をにらんでの活動が必要として定演直後の十二日(火)

のみを一回休んで、さつそく十九日の火曜日から練習再開とすることなつた。練習指揮者は未定であるが、岩本孝嗣さん(三九)が上海旅行に参加することから、都合がつけばお願いする予定。

定演チケット売れ行き好調!

販売責任者が注文殺到に悲鳴

今回の定演は、会場がサントリホールというところもあってチケットの売れ行きは上々、というよりも異常ですらある。定演まで一ヶ月を残してもチケットがなくなり、新たな注文に応じ切れず、六十枚余の受注残が出ている。稲グリとしてはやまだかつてないこ

とであり、恐ろしいくらい状況である。何といっても東京バラライカの皆さんから一七〇枚もの大量注文が出てきて担当の清水さん(三八)も完全にノックアウトされた形で、メンバーからプレイガイドから回収を図って手当てに奔走している。

指定券などまだお手元にお持ちの方は、至急清水さんまで返券して下さい。デッドストックは絶対に無しにしましょう!

会場側と打合わせ開始

六月十一日(土)、前日の幹事会の意向のもと、土屋演奏マネ、頼原チーフマネが秋葉さん(三一)の応援を得てサントリホールで会場側の担当者、窓口が山崎さん、先方の担当者は、窓口が山崎さん、ステマネが浜崎さん、会場受けが斎藤さん(女性)。

出演者が四団体で二〇〇人を超えるので、そのステージへの出入り、楽屋割りも大変である。また、B券の引替窓口、当日精算、チケットの当日預かり、招待受け、差入れ受け等、混雑が予想されるので、しっかりした陣容が必要である。乞うご協力。

第22回定期演奏会までの活動日程

6月14日(火)	東混練習場 18:30~21:00	月下の一群
■18日(土)	奉仕園 14:00~21:00	ミニ合宿
19日(日)	現役「東西四連」大阪フェス	
21日(火)	東混練習場 18:30~21:00	ロシア民謡※
24日(金)	プレイス24	世界の歌◎
■28日(火)	"	ロシア民謡※
		(バラライカ楽団と音合せ)
■30日(木)	"	ロシア民謡※
7月2日(土)	大橋区民会館13:30~16:00	世界の歌◎
	ワグネルOB演奏会18時・都市センターH	
■3日(日)	奉仕園 14:00~17:00	子供の歌☆
5日(火)	東混練習場 18:30~21:00	月下の一群
6日(水)	プレイス24	ロシア民謡※
		(バラライカ)
8日(金)	"	ロシア民謡※
9日(土)	第22回・稲グリ定期演奏会 サントリール大ホール	

■=追加練習、練習場注意
◎=桜楓合唱団、桜友女声合唱団と合同練習
☆=磯部淑さん(17)出席
※=指揮・堀俊輔さん(50)、ソロ・岡村喬生さん(29)出席

定演打上げパーティーのご案内

- 7月9日定演終了後(8時45分?~10時30分予定)
- 会場 東京全日空ホテル「鳳の間」(B1)
- 会費 OB及び一般男性 4,000円
賛助出演者、演奏者及び家族 2,000円
(幼稚園児以下無料)
- 責任者 篠松次郎(54)
- チケット担当 佐々木豊(59)
チケットを練習場で販売いたしますので、今月中にお買い上げください。
- お願い=ウイスキーの持ち込み大歓迎です。

練習状況

さすがに本番まで残すところ一月足らず。六十人台に突入して、練習場でも椅子が不足する程。録音、アンチヨコ作り、自パイト写譜等、各人の努力が随所で見られるのも嬉しい。ファイト!

◎今月の新人(久々組を含む)

T ₁	阿部 美博さん(三〇)
T ₂	金子 望さん(五七)
B ₁	平田 真さん(五七)
B ₂	石川 耕造さん(五七)
	岩本 明弘さん(三九)
	小原 孝嗣さん(三九)
	大原 正茂さん(五八)
	新田 義邦さん(三〇)
	足立 心一さん(五七)
	宮本 賢一さん(五七)

◎行方不明	山田 敦宏さん(六二)
B ₁	岩淵 靖宏さん(五八)

出席状況

	◎	合宿						◎
	5/10	14	17	19	24	28~29	31	6/5 7
T ₁	14	13	12	8	13	11	13	16
T ₂	12	10	13	6	15	12	12	14
B ₁	12	9	17	8	13	18	12	12
B ₂	20	13	20	10	18	19	21	18
	58	45	62	32	59	60	58	61 60

◎=混声合同

【ハミダシ編集後記その①】岡村先輩にいつもの編集後記欄をまたしても奪われちゃいましたので、今号はハミダシ欄の後記となりました。(編集局)

オンステは最良の体調で臨もう!!

演奏マネジャー 土屋 信吾(四四)

いよいよ定演もあと一ヶ月足らずを残すのみとなりました。皆さん、体調の維持整備にはくれぐれも気をつけていただきたいと思いますが、ベストコンディションで歌うために気がついた点をいくつか挙げてみますので是非ご留意お願いします。

一、練習でも本番でもそうですが、食事後、胃に食べ物が残っている間(食後大体四時間位)はブレスが十分に入らず、喉もよく共鳴しないものです。したがって、この時間内に無理に大きな声を出す馬力声になりやすく、かつ声帯に無理な負担がかかります。どうしてもこの時間帯に歌わねばならぬ

いときは、あとで十分な喉の休養が必要です。

一、メシを食わないとハラに力が入らない。などという事は本当はあまりないはずだということをよくわきまえ、夜に練習のある日は出来るだけ昼食の時間をずらし、午後二時ぐらいまでにすいた食堂でゆつくり、タツプリ食べ、夕食はとらずに練習に臨んだほうが声のためには好ましいと思います。

二、サントリールホールは響きの良い会場です。声の割れ、疲れはつき面にお客さんに分かってしまいます。いつもラスト、ヘビーで追い込みをかけるあなた!文士の原稿書きとは違うのですから、普段

次なるステップ

会長 福井 忠雄(二九)



「本日皆様を前に第一回の発表会を開くに当たり、我々クラブ員一同、感慨誠に無量であります。昭和二十七年春の発足以来OBの数の不足は如何ともなし難く、或る時は四人、或る時は二人と、歌うに歌えぬ集まりの状態が何年か続きましたが、皆一途に今日あるを夢に頑張り続けた苦労と努力が実を結び、遂にこの発表会となりましたものであります。

唯、メンバーは揃ったとはいえず、学生時代と異り週一回二時間の練習しか出来ない事は本当に残念です。

しかし、現役時代の豊富な経験を生かして、後輩早大グループの良き指導者として、又常に新しい意欲を保ち、邦人新曲もどしどし採用し、合唱界に新風を送り

続けたいと念じております。以上は一九五八年一月十七日、銀座山葉ホールで開かれた第一回定演のご挨拶文です。その時から三十周年を迎え、当時の指揮者、メンバーの殆どが参加し、私達の演奏活動の集大成として今宵の演奏会が開かれることとなりました。長い間我々をご支援下さいました皆様、厚くお礼申し上げます。賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。」

「：」内の文章は今二十二回定演プログラムに掲載されるのは、今定演で一応の区切りがつけられた、リフレッシュ稲グリをどのように構築するか、再発展のための

から体調を整え毎日のおさらいを怠らず、余裕をもって仕上げよう。うに頑張りましょう。

昼休みの囲碁、将棋をこの一ヶ月だけガマンして、毎日一回全曲譜読みをするだけで随分自信がついてくるものだということをお忘れなく!是非実行してください。

そして、本番直前にあまり喉を酷使して名ホールに割れ鐘を響かせないよう、自分なりのペース作りと音量・スタミナ配分を実行しましょう。

せつかく立派な会場で歌えるのですから、ステージの上でマナイタの鯉になったとき堂々と全力を出し切れるよう、悔悟の涙にくだないよう。

サア、成功の美酒のため、もう一息の努力を!!

ロシア民謡曲目解説

伊東 一郎(四七)

議論を始めるべき時ではないかと思ふからです。今の稲グリは昭和三十五年から四十四年卒の十年間のOBが中核となつていますが、今回ロシア民謡集を指揮する堀君(五〇)以降の人達が第三の軍団として登場してくれないでしようか。川元君(五六)や山本正洋君(五七)のようなかなり若い人達の軍団は形成されつつあるのですから。

第一回のメンバーの殆どは二十歳台でした。ですから合唱界に新風を吹き込みたいという意欲をもつて見直してみたいと思うのです。選曲も運営もそれによつて大いに変わるはずで、また、危険を伴う恐れがあるのかも知れませんが、しかし私は敢えて若い人達だけにワンステージだけでも構築できないかと期待しているのですが、如何でしょうか?年末のマリオン、来年の四連のステップを経て次回の定期では是非とも実現したいものです。

「夜道を一人歩めば」一週間
東京バラライカ・アンサンブルのみによる演奏。
ソヴィエトの作曲家ブダシキンが二つのロシア民謡のテーマを用いて作曲したロシア民族楽器オーケストラのための変奏曲。バラライカ、ドムラその他のロシア特有の民族楽器が次々と登場する。

「小川に沿って」V・ザハールフ、堀俊輔編曲
軽快なテンポで歌われる兵士の歌。

「ヴォルガの船歌」ケネマン、北川つとむ編曲
岡村喬生さんのみのソロ。
昔からシャリヤーピンの歌で知られてる有名なロシア民謡。十九世紀に汽船が登場する以前には、ヴォルガのような大河を船で逆のぼるためには船曳きの苛酷な労働に頼らねばならなかった。流れに逆らって両岸で集団で船を曳く労働から生まれたのがこの歌である。

「コサツクの子守歌」福永陽一郎編曲
十九世紀のロマン主義詩人レールモンツフの詩によるロシア民謡。レールモンツフの原詩は彼がコーカサスに滞在中にグレベン・コサツクの民謡に取材して書いたもの。

「ステンカ・ライジン」福永陽一郎、北川つとむ編曲
ドン・コサツク合唱団などの合唱で古くから知られたロシア民謡。曲の成立は十九世紀後半だが、歌われているのは十七世紀の大規模な農民反乱の指導者だったステンパ・ライジンの故事を歌ったもの。ドン・コサツクを率いてヴォルガを下り、カスピ海対岸のペルシャにまで遠征したライジンが、そこで略奪したペルシャの姫とヴォルガに浮かべた船上で婚礼を挙げたところ、部下のコサツク達が不平をならしたのでライジンはその姫をヴォルガに投げ込んだ、というラード風に展開される。

【ハミダシ編集後記その②】今号の制作に大童の十一日(土)夜のこと、E編集子がせつせとワープロを打っているところへ某前DEBU幹事長から入電。「今、新宿で飲んでるから、すぐに来い!」との強制命令で予定作業がパアに。お陰で本日はやっぱり午前様。(E)

「月下の一群」に寄せて

Ⅰ ステ指揮者 山本 正洋(五七)

フランス近代詩の訳詩によるこの曲集について、作曲家南弘明は「いづれも青年らしい豊かな感受性、想像力に富んだものばかりでこれらによって私は青春を歌いあげようとした。」と書いています。一九八一年春、早大グリークラブ第三十回送別演奏会で、本日のピアノと阿部と共に私はこの曲を演奏した。学生指揮者としての初ステージであった。

稲門グリークラブを指揮するのは本日四回目であるが、定演という大舞台では初めてである。私なりにステージ構成を考え選曲を進めてきたが、その中で多くの先輩方から「月下の一群」の再演を望む声が出された。

稲グリとしては異例のことであるが、昨年の大阪「ザ・シンフォニー」で、「赤とんぼ」や「この道」に代表される日本の歌が静かなブームとなつて歌われています。誰もが親しめる懐かしい歌です。心の琴線にふれる歌は時代を超え、空間を超えて歌われます。暮れから今年の正月にかけてフレール少年合唱団の中国公演に指揮者として同行しましたが、会場ではハレルヤに大きな拍手が湧き、バスの中で子供達が自然に歌い出すのもハレルヤでした。これは以前公演したマレーシアでも同じでした。

今日歌います世界の歌は長い歴史の雨に洗われながら遠く離れた国から日本にきた名曲ばかりです。名曲ですが決して難かしくありません。誰もが歌える素朴な歌ばかりです。難かしい飾りがありませんから誰が歌っても同じように歌えます。しかし、同じではステージで歌

「子どもの歌」の

ステージによせて

Ⅲ ステ指揮者 磯部 叙(一七)

今度の、私が指揮をするステージについて、福井会長、演奏会マネージャーの土屋君から話があった。私の作品による「子どもの歌」に決まりました。ほかに二、三の案もありましたが、今回はこれで、ということになったのです。一九五五年(昭和三〇年)に私は中田喜直氏と相談をして、子どものため良い歌を作るグループを結成しました。中田一次、大中恩、宇賀神光利を加えた五人の作曲家による「ろばの会」が、それであり

「びわ」。「いちぢく」は、その最も初期の作品であります。「びわ」は広く全国のおかあさんコーラスで唄われていますし、「いちぢく」は、われらのバス歌手、岡村喬生の愛唱する曲になつていくやうで、私は今、とても嬉しい気持ちです。

今夜は新旧七曲をまとめて演奏します。稲門グリークラブのたく

定演に向けて——指揮者の言葉

う意味がありません。素朴な歌にこそ思いを込めて聴衆と共に感動する演奏をしなければと、練習をして参りました。

芭蕉は「竹のことは竹に習え」といつています。歌のことは歌に習えです。つまり、自己を空しくして歌う「うた」になりきって歌い込むことです。世阿弥も花伝書の中で「稽古は強かれ諳識はなかれ」と書いています。我を張る心を去ってひたすら稽古に徹せよといひます。「初心忘るべからず」も世阿弥の言葉です。初心を、是非、時々、老後の三つとしていま

うたのこころ

Ⅱ ステ指揮者 山本 健二(三二)

すが、いずれにせよ初心とは自己の未熟を自覚する謙虚な心であるといひます。さればこそ一に稽古、二に稽古の厳しさを説き、稽古を積み重ねること誠の花とせよといひます。詩人の言葉の陰に作曲家の音符の陰にそれぞれ何万の言葉や音符が埋もれていることでしょう。それを思うと歌い手は音楽の中で熟するまで歌い込まなければならぬと思ひます。今日の演奏が歌の心となり会場の方々と共に楽しみ、心豊かなひとときとなればと願っています。



テイラーメイド

Ⅱ ステ「世界の歌」編曲者 玉田 元康(三二)

多いのが実情です。今回の編曲は、指揮者山本さんの構想をくわしく聞き、稲門、桜楓、桜友の諸兄弟がステージに並んだ姿を想像しながら書きました。いわば、今回のコンサートのためのテイラーメイドです。一曲でも二曲でもびつたりフィットしたものがあれば満足です。

東京バラライカ・アンサンブル

一九八一年、指導者北川つとむがモスクワから持ち帰ったロシア民族楽器を中心に結成。現在、メンバー四〇名。日本唯一の本格的なロシア民族楽器オーケストラとして、各種演奏会、独唱、合唱伴奏などに活躍している。



ましいい男声合唱による私の「子どもの歌」もまたひと味違った楽しさが出ると思ひます。江藤純子さんのピアノの流れに乗せて語る磯部和(編集局注・磯部先生夫人)のナレーションも、NHKでしゃべっていた昔を思い出して、一生懸命やると言っています。私も久しぶりの稲門グリーとの協演を、アットホームな雰囲気の中にも、ご来場の皆さんの胸に響くようなステージにしたいと希っています。

【ハミダシ編集後記その⑧】編集局が七月十七日から下記へ移転します。〒一九〇一〇二 武蔵村山市大南二二二六〇一 頼原信二郎方。今号は新宿から出す最後の稲グリ新聞。これからはS編集子の出退勤が大変になります。(E)

過去最高、

合宿六十名参加に感激!

合宿村長 小俣 泰英(三八)

定演に向けての「強化合宿」も、去る五月二十八日(土)二十九日(日)昨年と同じく河口湖の口ツジ・コニシで成功裡に無事終わりました。皆さん大変ご苦労様でした。

日頃、加藤幹事長から「定演オンステムンバーを何とか一〇〇名にしよう」との号令がかかっていたので、この合宿では参加者六十名以上と目標を立てて臨みました。しかし二、三日前になっても五十名そこそこ、みんな年輪的に忙しい人達ばかりだから仕方ない

懐かしいメロデーにじーん!

第三十七回東京六連を聴く

現役担当マネ 佐々木 豊(五九)

五月二十一日(土)夕刻、あいにく空模様の中、わが稲グリが前回の定演を催した五反田の「うぼとち」へでかけた。現役の東京六連初日を聴くためである。冒頭に記したような曜日・時刻天候のためか客足もやや少なめ

であったか? お元氣になられた福永陽一郎氏のタクトと、今や合唱ピアニストの第一人者・久邇宜氏の伴奏のもと、披露されたのはフォスターの名曲のメロデー。次々に胸にしみ込む懐かしいメロデーに聴衆は酔いしれていた。我々六連OBでさえ(六連OBなればこそ?)七ステージから成るこの演奏会を全て聴くのは、正直疲れ

【ハミダシ編集後記その④】ワセグリ現役事務所にOB会から資料整理用のアルバムを一〇〇冊余り寄付。現役諸君も喜んでいますが、定演までに何とか発刊したいと頑張っています。乞うご期待。(編集局)

だが見よ!翌朝「仕事のやりくりがつかないから今から行くよ!」という電話が入ったときは年甲斐もなく正に感激してしまいました。参加六十名達成の一瞬の一席です。合宿の成果は?やや手前味噌ですが大いに前進したと思います。ロシア民謡は堀君の迫力ある指導に圧倒されて、みんな真剣に取り組んだので何とかいけるとの感触を得ています。きつと自習の効果が出ています。山本君の「月下の一群」も昨四連以来約一年ぶりにしてはみんな結構覚えていてスムーズに通じさうになりました。もっとも、声も力もカサカサにな

《大阪稲グリ便り》

第二十五回 大阪府合唱祭に参加

大阪稲グリ初夏の恒例イベント、合唱祭参加が近付きました。六月十九日(日)、吹田市文化会館メシシアター中ホールです。今年上海演奏旅行に持って行く曲の中から楽しいもの二曲を選んで歌います。曲目は「天までとどけ」さだまさし曲、「オブラデー・オブラデー」です。編曲指揮、藤野充(四〇)。

東京の定演にも駆けつけます 七月九日の東京の定演には大阪代表として宮本君(四二)、西君(四三)他数名のメンバーのオンステを予定しています。「月下の一群」では是非お手伝いしたいと張り切っていますのでよろしく!

富永 侃前幹事長(三五)談



岡村喬生・著

「渡る世界に

オニはない」

七ゲのオタマジヤクシの旅、食と歌

読売新聞社刊・一三〇〇円

六月中旬発売

ご笑覧ください。

【打上げ】 当日 一時三十分〜三時三十分 「福よし」 〇六一三八五―八八二九

8月4日(木) 19時開演 サントリーホール(大ホール)

指揮: 小松一彦
管弦楽: 新日本フィル
合唱: 晋友会合唱団
合唱指導: 関屋 晋
構成演出: 実相寺昭雄

岡村喬生 『世界を歌う』

想い出の歌の数々

ムソルグスキー: 交響詩「禿山の一夜」
ムソルグスキー: 歌劇「ボリス・ゴドゥノフ」より
ビゼー: 歌劇「カルメン」前奏曲
ヴェルディ: 歌劇「ドン・カルロ」より
ロッシニ: 歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲
クルティス: ナポリ民謡「帰れソレントへ」
ロジャース: 「南太平洋」より
ヨハン・シュトラウス: ポルカ「雷鳴と雷光」
シューベルト: 「セレナード」
シェジンスキー: 「ウィーン、我が夢のまち」
●入場券 S席=5,000円/A席=4,000円/P席=2,000円
お電話にてご予約ください
TEL 03-505-0055
主催 グローバルユースビューロー

